

CASIO

CASIO

世界が
気づいていない、
世界へ。

CORPORATE REPORT

2016

カシオ計算機株式会社

<http://casio.jp/>

世界が
気づいていない、
世界へ。

「必要は発明の母」ではなく、「発明は必要の母」。

これは、カシオの創業メンバーの言葉です。

今はまだ存在しない「必要」を「発明」すること。

それまでにない斬新な働きを持った製品を創造することで、

人々に新しい「気づき」や「喜び」を感じてもらう。

それが、未来の社会をより豊かにすると私たちは信じています。

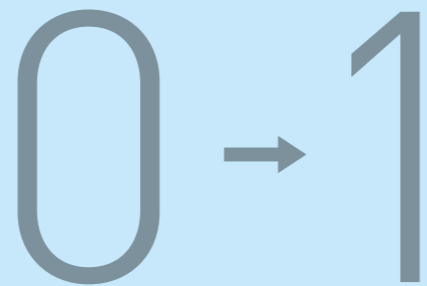
CASIO

VARIABLE

経営理念

創造 貢献

ポリシー



CONTENTS

01 CASIO
VALUE 提供する価値

- 04 トップメッセージ
- 05 存在意義
- 06 カシオが価値を提供するフィールド

07 CASIO
PRODUCTS 価値を生み出す手段

- 09 教育
- 10 生活
- 11 文化
- 12 仕事
- 13 主要製品とコアテクノロジー

15 CASIO
STYLE 価値の源泉

- 17 まだ世の中に存在せず、
そして真に必要とされるものを、創造し続ける

- 19 グローバルに展開するカシオ
- 21 グローバルで信頼されるカシオ
- 23 カシオのイノベーションの歴史
- 25 企業情報

トップメッセージ



世の中の期待を超える製品で 新たな可能性を提供し続けます。

人間は無数の可能性を持っています。見る、感じる、学ぶという体験から得た知識を基に自ら考え、高い次元の知的な創造活動を重ねることで、科学や文化の新しい分野を次々に生み出し、飛躍的な進化を遂げてきました。発明によって生まれた電卓、時計、電子楽器、電子辞書、デジタルカメラといった道具は、数や時刻、音楽、言語などの情報を、誰もが毎日の生活で手軽に扱うことを可能にしました。カシオは人々の知的な創造活動をサポートする新しい製品を発明し、社会をより豊かにすることが自らの使命だと考えています。

本当は必要なのに、まだ存在していないものが、世の中には無数に隠れています。「なぜ昔は、これがなかったのか?」そう思われるような、未来の常識を創造することが私たちの役割です。商品開発では、既成概念にとらわれず「ゼロから1を生み出す」自由な発想で、劇的に新しい価値を世の中に提供することを目指します。

また製品やサービスは、使ってくれる「人」がいてこそ、初めて存在価値を持つものです。だから私たちは「ユーザーにとって何の役に立てるか」を常に忘れません。そして当社の製品を愛用してくださる方々は、必要な機能だけでなく、使いやすさや信頼性、デザイン、世界観も含めてご支持くださっていると感じています。ユーザーの皆さまと共有しているこれらの大切な価値を守り、社会の変化に合った新しい提案を加え、生活をより良くできる商品を届け続けます。

ユーザーに新たな可能性を提供し、今までになかった新しい体験をしていただけることが、メーカーとして私たちがができる最高の貢献だと思います。これからも当社は、ユーザーの皆さまと文化を共創し、ともに成長と発展を目指してまいります。

代表取締役 会長
檜尾 和雄

代表取締役 社長
檜尾 和宏

カシオは、
豊かな未来につながる
人間の知的創造活動を
サポートします。

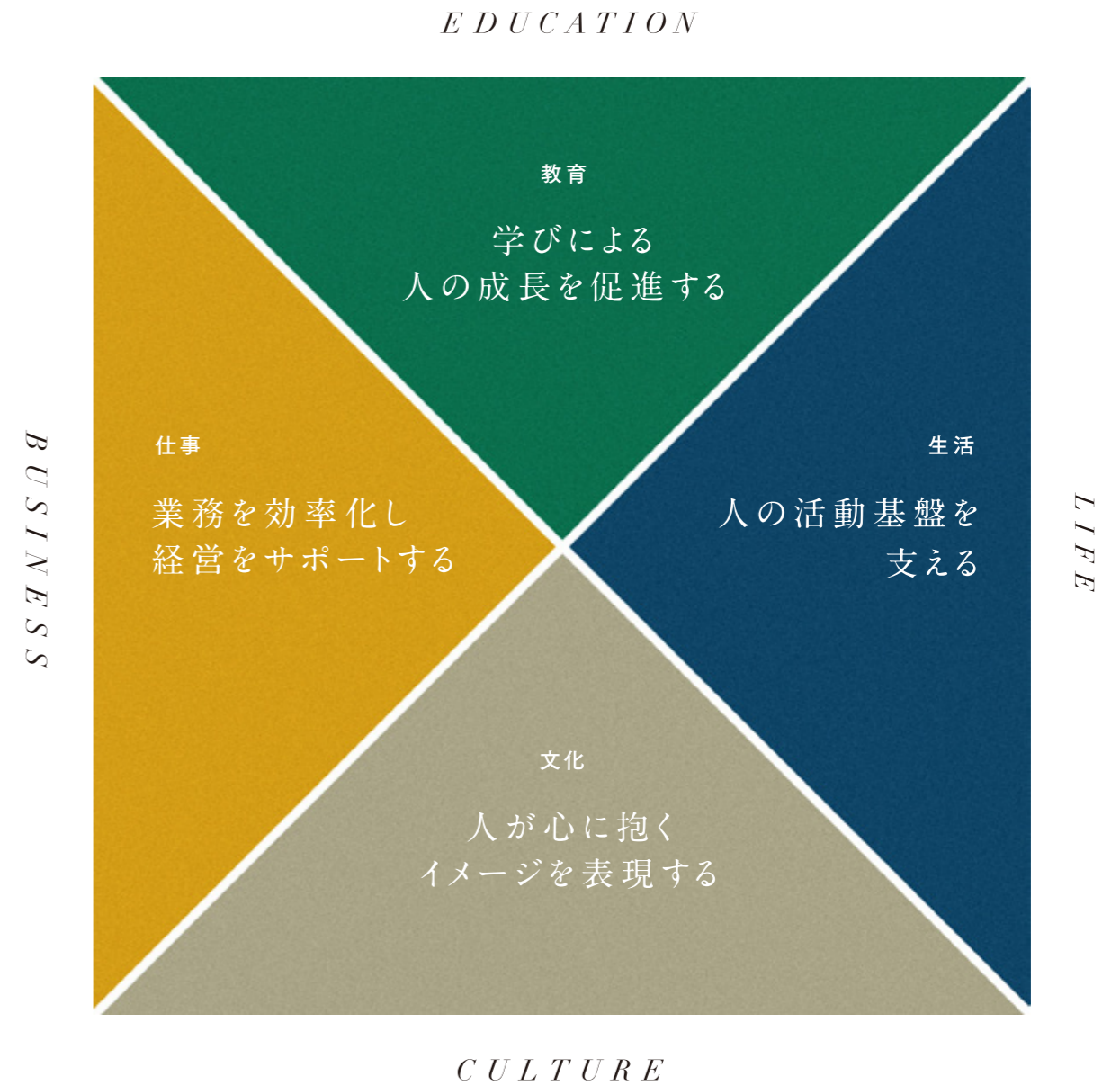
人間は、無限の可能性を秘めています。

考える力を発揮することで、新しい価値を生み出し、
社会を発展させることができます。

プライベートライフから、ビジネスの最前線まで。

人間の知的創造のフィールドへ、
独自の製品やサービスを提供し、
人々の新たな可能性を広げること。

これこそが私たちカシオが提供する価値です。



CASIO

PRODUCTS

— 価値を生み出す手段 —

人がいちばん輝くとき。

それは人が持つ本来の能力に、

気づいたときなのかもしれない。



L I F E



人の活動基盤を支える

過酷な任務を遂行するレスキュー隊。
彼らには、どのような状況でも
正確さとスピードが求められます。

時刻や時間の経過を認識し、
次の行動を判断するために、
タフな環境において正しく時を刻む腕時計は、
欠くことのできない装備となっています。

日々の生活でも時刻は大切な情報です。
正確な情報を基にプランを立てて行動する。
そうした人々の活動を支える製品を提供しています。



E D U C A T I O N



学びによる
人の成長を促進する

数学の授業を受ける子どもたち。
彼らは、答えを導く力を身に付けるために学んでいます。

問題の解き方を考えることに集中できるように、
教科書通りの数式や母国語を表示して
分かりやすく計算できる電卓が、
世界中の学校で役立っています。

子どもたちはもちろん、誰もが学ぶことで成長できる。
そうした人々の学ぶ姿勢を
サポートする製品を提供しています。



BUSINESS



業務を効率化し 経営をサポートする

物流センターで荷物を扱う現場スタッフ。
彼らには、常に高い精度のオペレーションが求められています。

商品の入出荷管理やピッキング作業などを
素早く正確に行うためのハンディターミナルは、
汚れなどで読み取りにくくなったバーコードも
高速でスキャンすることが可能です。

物流業や流通小売業など、
現場の正確さやスピードを高めて経営に生かす。
そうしたビジネスの最前線を効率化する製品を提供しています。

CULTURE



人が心に抱くイメージを 表現する

美しい旋律を奏で、人々を魅了するピアニスト。
その音楽は、人が持つ感性と
楽器の表現力によって成り立ちます。

伝統あるヨーロッパのブランドが手掛けた
グランドピアノの音色を、革新的な技術によって、
場所を選ばず弾くことができる電子ピアノは、
まるでコンサートで演奏しているような響きをもたらします。

心に抱くイメージや思いを表現できる。
そうした人々の喜びや感動を広げる製品を提供しています。



学びによる人の成長を促進する



電子辞書
EX-word (エクスワード)



英会話学習機
EX-word RISE (エクスワード ライズ)



英会話学習機
joy study (ジョイスタディ)



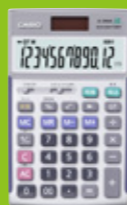
デジタル知育ツール
kids-word (キッズワード)



関数電卓
CLASSWIZ (クラスウィズ)



グラフ関数電卓



本格実務電卓



電子ピアノ
CELVIANO Grand Hybrid
(セルヴィアーノ グランドハイブリッド)



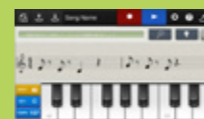
電子ピアノ
Privia (プリヴィア)



電子キーボード



DJ機器
TRACKFORMER (トラックフォーマー)



スマートフォンアプリ
Chordana Composer
(コードナコンポーザー)



デジタルカメラ
HIGH SPEED EXILIM
(ハイスピード エクシリム)



自分撮りカメラ
EXILIM TR (エクシリム TR)



アウトドアレコーダー
EXILIM FR (エクシリム FR)



ラベルライター
NAME LAND (ネームランド)

人が心に抱くイメージを表現する

主要製品と コアテクノロジー

デジタル技術
不可能を可能にする

省電力
小さなパワーで
賢く働く

耐久性
いつまでも使える
安心感

小型化
小さく、薄く、軽く

使いやすさ
誰にでも使いやすく

高水準の技術に支えられた、
独創的な製品を展開

世の中に新たな価値を生む斬新な発想を具現化するためには、高水準の技術が必要です。カシオは開発の核となる五つのテクノロジーを駆使して、お客さまの潜在的なニーズをとらえる製品を生み出しています。



耐衝撃ウオッチ
G-SHOCK (Gショック)



女性向けタフネスウオッチ
BABY-G (ベイビー G)



アウトドアウオッチ
PRO TREK (プロトレック)



高機能アナログウオッチ
OCEANUS (オシアナス)



高機能アナログウオッチ
EDIFICE (エディフィス)



女性向けメタルウオッチ
SHEEN (シーン)



リストデバイス
Smart Outdoor Watch
(スマートアウトドアウオッチ)



水中トランシーバー
Logosease (ログシーズ)

人の活動基盤を支える



ランプフリープロジェクター



ハンディターミナル



レジアプリ搭載 店舗支援端末



電子レジスター



ページプリンタ
SPEEDIA (スピーディア)



人事統合システム
ADPS (アドプス)



経営支援基幹システム
楽一 (らくいち)



店頭販促支援ツール
カシオサインージ

業務を効率化し経営をサポートする

CASIO

STYLE

— 価値の源泉 —

人の知的創造活動を支える製品は、
人の知的探究心によって
生み出されている。

まだ世の中に存在せず、そして 真に必要とされるものを、創造し続ける

Smart Outdoor Watch WSD-F10は、スマートフォンとの連携によって、アウトドアシーンで必要となる情報をタイムリーに知らせる機能を備えた、新しいカテゴリーの製品である。誕生に至るプロセスでは、カシオならではの開発姿勢が貫かれている。



Smart Outdoor Watch
WSD-F10

アウトドア用途に特化したリストデバイス(腕時計型情報端末)。「トレッキング」「サイクリング」「釣り」などのシーンをサポートする多彩な機能、高い防水性能と米軍の物資調達規格(MIL)に準拠した堅牢性が大きな特長となっている。自然環境の変化や活動量を計測するオリジナルの専用アプリをプリセットしているほか、アプリを追加して機能を拡張することもできる。OSにはAndroid Wear™プラットフォームを採用。

01 「原点」に立ち返ることで、 突破口を見いだす

2011年が暮れるころ、一つの開発構想が浮かび上がった。「情報機器の一等地」である手首に着ける、インターネットとつながる新しいリストデバイスはどうかあるべきか——。翌年の春には、正式に開発プロジェクトがスタートした。

最初の試作機は、2012年の年末に完成している。それは汎用性を重視したため、機能も形状もスマートフォンを小さくしたようなものだった。「何でもできるのはいいが、スマートフォンで事足りる。わざわざリストデバイスで操作する必要はあるのか?」。製品化は見送られた。

次に取り組んだのは、用途をランニングに絞ったリストデバイスだった。GPSなど豊富な機能を搭載しているものの、ランナー向けの腕時計と比べて、端末の重さや電池寿命などの欠点だけが目立っていた。さらに、競合するランニング用のスマートフォンアプリもあった。「これでは市場で勝てない」と、上層部は判断した。「開発の突破口がなかなか見いだせなかった」と、開発メンバーの岡田は当時を振り返る。求めているものは、独創的で世の中にはない新しい価値、そしてユーザーから本当に必要だと認められる価値を持っていること。このころプロジェクトに加わった山下は、初めて職場の扉を開けたとき、「落ち込んでいる感じはなく、むしろ“これから新しいものを作るぞ”という雰囲気でした」と証言する。

手首に着けているからできること——。開発メンバーはもう一度この原点に立ち返り、スマートフォンを使いたくても使えない状態で、手元で情報を得られるという特長を生かしたリストデバイスを考え抜いた。そしてたどり着いたのは、野外のレジャーで真価を発揮できる、「スマートなアウトドアウオッチ」だった。例えば、山登りでスマートフォンをリュックサックなどに入れているとき、曇天時にリストデバイスに向かって声で指示を出すと、現在地付近の雨の様子が瞬時に表示される。あるいは自転車で行く途中、目的地までの到達度が手元で確認できる。休憩を取るタイミングまでアドバイスしてくれる——。メンバーたちの頭の中には、そんな完成イメージが出来上がりつつあった。コンセプトが固まり、ついに製品化のゴーサインが出た。

羽村技術センター 新規事業開発部

岡田 健

2000年入社。PDA、業務端末、携帯電話、ネットワークサービスの開発などに携わる。2011年の年末に、リストデバイスの開発構想が浮かび上がるとメンバーに招集される。企画/仕様設計担当。



羽村技術センター 新規事業開発部

勝田 寛志

2010年入社。デジタルカメラの開発に携わった後、スポーツ用途のデバイスの開発を経て、2012年春よりリストデバイス開発プロジェクトに加わる。主に実装系の開発を担当。



羽村技術センター 新規事業開発部

山下 樹

2013年入社。新規事業開発部に配属され、最初からリストデバイス開発プロジェクトのメンバーに。2年目からウェア開発担当。



02 言葉で伝えきれないならば、 試作機を作ってしまう

本格的な開発がスタートした。ハードウェアの開発では、落下・振動などの試験をクリアしなければならない「米 MIL 規格」準拠の堅牢性確保を、目標に掲げた。

そして、開発の絶対条件と位置づけたのは防水マイクだった。アウトドアシーンで両手がふさがっている状態を想定すると、音声による操作を支えるマイクは必須。また、悪天候での使用や釣りなどの水辺のレジャーを考えて、水しぶきを防ぐ程度のもではなく、スマートウォッチのジャンルでは世界初となる5気圧防水の実現を目指した。「音を上手く伝達できる特性と、高い防水性を兼ね備えた振動膜の材料を徹底して吟味しました。また、強い圧力が加わった際の変形をなるべく抑え、音響的にも問題のない構造を試行錯誤の末に確立しました。5気圧防水をはじめ、耐環境性能という価値によって、他社製品との明確な差異化ができる」と、当時から思っていました」と担当した勝田は話す。

開発に着手したほぼ同時期に、米 Google 社がウェアラブル端末向けの OS「Android Wear™」を発表している。この利用許諾を得るとともに、Google 社に製品の企画を説明した。しかしカラー液晶とモノクロ液晶を二層に重ねたカシオならではのディスプレイについては、Google 社が想定している仕様ではなく、議論は平行線のままだった。

だが、このまま引き下がるわけにはいかない。二層液晶は太陽光下でも見やすく、普段はモノクロ液晶のみで時刻を表示させれば、電池寿命を大幅に延ばせる。ユーザーからは間違いなく支持されるという確信があった。「言葉で良さを伝えきれないならば、試作機を作ってしまう」。技術者たちは、ただちにサンプルの製作にとりかかった。

次の協議で Google 社の担当者に、二層液晶を搭載した試作機を披露した。担当者はカシオの二層液晶を「衝撃的だ」と表現し、



5気圧防水構造



MIL規格準拠



二層構造ディスプレイ

高く評価したのだ。続いてソフトウェアを実用レベルまで高め、山下らが Google 社の担当者と詰めの協議を行った。「Android Wear™上で便利に使える二層液晶を試してもらい、最終的に先方の責任者にも理解が得られました。もし理解されなかったらディスプレイの機能性はダウンしていました」と、山下は言う。

03 本当に使ってもらえる オリジナルアプリ

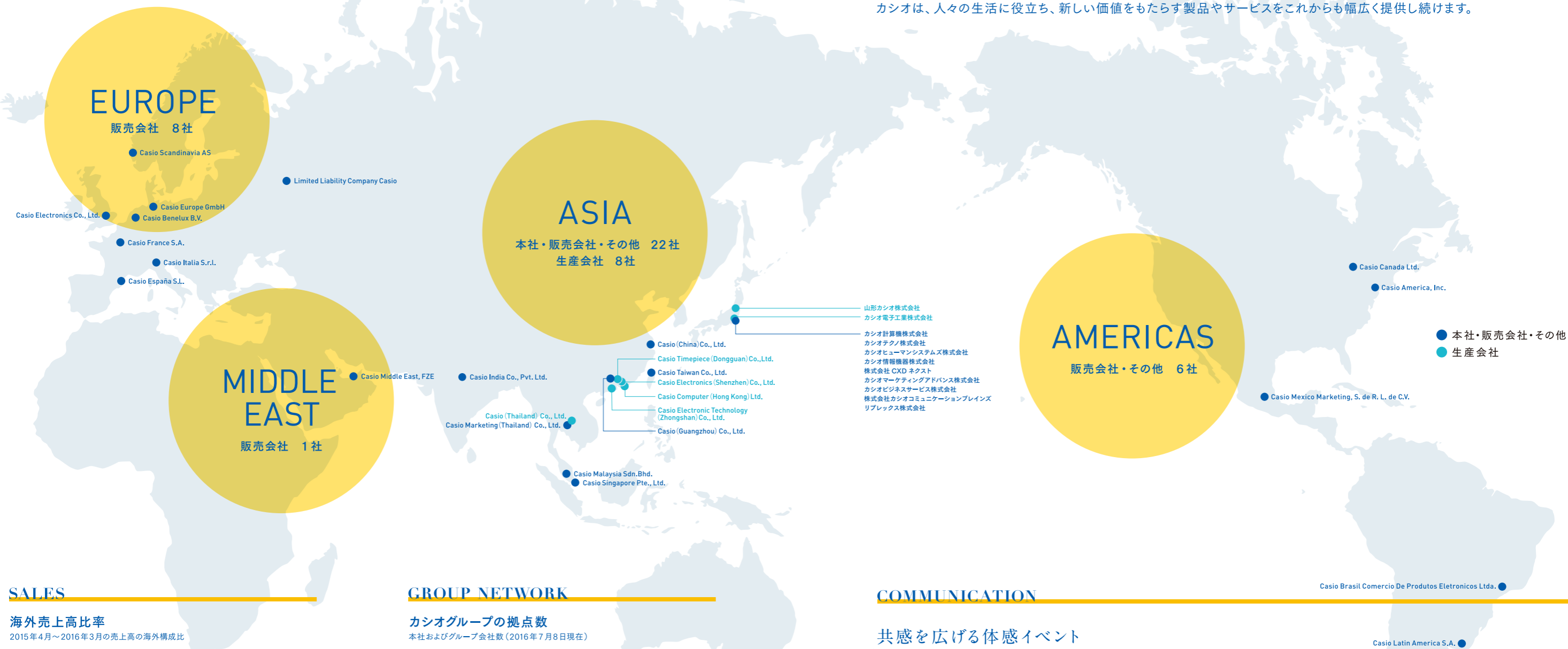
アウトドアの愛好者から本当に必要とされる機能とは?そして長年使い続けたいような価値を、いかに生み出すか……? 岡田はその解を得るため、実際にバス釣りのプロとフィッシングを体験したり、登山家へのインタビューを重ねたりした。その成果は、例えば登山者へ「日の出まであと30分」という通知を出したり、サイクリング中にカロリー補給のタイミングをアドバイスしたり、月齢と月の時角を基に釣りに適した時間帯を知らせたり、といったユーザーのアクティビティに合わせた情報を伝えるオリジナルアプリの機能に反映されている。「もともと、リストデバイスが提供できる価値として、使っている人が気付かない情報を伝える“瞬間価値”という発想がありました。それをアウトドアを楽しむ人たちにに向けて、もっと広げていきたい」と、岡田にはこれから目指す道が見えている。

2016年3月、開発したリストデバイスは「Smart Outdoor Watch WSD-F10」として発売した。開発チームは、どうしたら人々に使い続けてもらえる新しい価値を提供できるかを追求してきた。壁にぶつかってもあきらめずに、斬新なアイデアで突破口を見つけ、チャレンジを続ける……。これらを原動力にして、本当は必要なのに、まだ存在していないものを、今後も具現化し続ける。

GLOBAL

グローバルに展開するカシオ

多くの人々に親しまれているCASIOブランドの製品は、グローバルに連携した生産体制と各国に広がる販売ネットワークによって世界中に届けられています。カシオは、人々の生活に役立ち、新しい価値をもたらす製品やサービスをこれからも幅広く提供し続けます。



SALES

海外売上高比率
2015年4月～2016年3月の売上高の海外構成比

68.6%

BRAND

CASIOブランドの商標登録数
広域商標制度を利用した地域は1地域としてカウント

187の国と地域

世界における販売エリア
2015年4月～2016年3月の正規販売エリア

167の国と地域

GROUP NETWORK

カシオグループの拠点数
本社およびグループ会社数 (2016年7月8日現在)

45拠点

PRODUCTS

電卓の世界累計出荷数
1965年9月～2016年3月の累計出荷数

14億台以上

G-SHOCKの世界累計出荷数
1983年4月～2016年3月の累計出荷数

8,700万個以上

COMMUNICATION

共感を広げる体感イベント 「SHOCK THE WORLD」

G-SHOCKの本質である「タフネス」を、ブランドの世界観とともに伝えるグローバルなプロモーションが「SHOCK THE WORLD」です。2008年にニューヨークで開催して以来、世界各国の延べ73都市 (2016年7月現在) で実施。G-SHOCKファンの方々に、製品の持つ魅力を全身で感じてもらう取り組みです。

世界の展示会で存在感を高める CASIOブランド

カシオは、世界有数の企業が参加する展示会に毎年出展しています。ラスベガスで開催される世界最大級の家電見本市「インターナショナル・コンシューマー・エレクトロニクス・ショー (CES)」や、世界中のメディアやバイヤーが集まるスイスの時計・宝飾見本市「バーゼルワールド」から、最新情報をグローバルに発信しています。



SHOCK THE WORLD 2016 SHANGHAI



CES2016



バーゼルワールド 2016

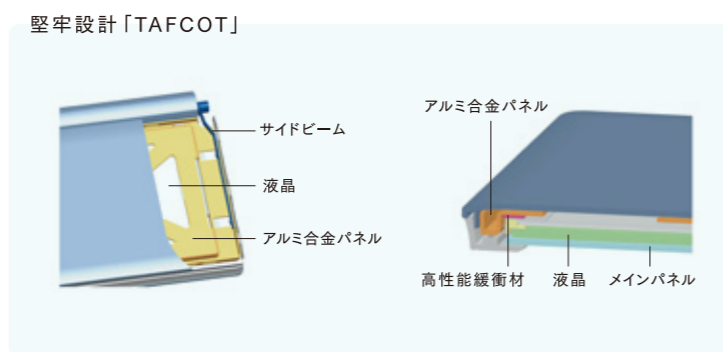
グローバルで信頼されるカシオ

カシオは、より長く、安心して使用できる製品を提供するため、徹底した品質管理の下、設計段階から完成品に至るまで、常に妥協のないモノづくりを実践しています。また、安全に楽しく暮らせる社会の実現に向けた活動を、世界中で展開しています。

→ 信頼性への取り組み

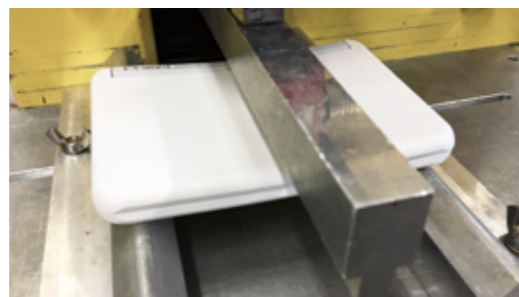
安心して長く使える設計思想

カシオには、製品を長く使っていただくための設計思想があります。堅牢性を高める技術「TAFECOT（タフコット）」は、高強度材のサイドビームとアルミ合金パネルでボディ剛性を高めているほか、内部に保護空間を確保するアルミ合金パネルと高性能緩衝材によって、外部から液晶表示パネルにかかる力を和らげる設計です。使用中に落としたり、かばんの中で力が加わったりすることを想定した電子辞書に採用しています。



設計段階での徹底した品質試験

製品の使用状況を想定した品質規格を策定し、設計段階からプロトタイプによる厳しいテストを実施しています。例えば、電子辞書の加圧テストでは、本体に荷重を加え、上方向からの堅牢性を検証します。また、高所での使用が想定されるハンディターミナルでは、設計通りの落下強度があるかどうかを試験します。さらに、防水や防塵など、製品ごとの規格を全てクリアしたものが生産プロセスに進むことができます。



高水準の製造技術で品質を高める生産体制

山形カシオの「プレミアムプロダクションライン」では、独自の製造装置で精度を極限まで高める技術と上位の技能認定者のみが持つ人間の高度な技術によって、高品質な高価格帯のブランド時計を生産しています。また、海外生産ではグローバルな生産体制の下で高い製品クオリティを実現しています。例えば、カシオタイでは不純物の混入を防ぐクリーンルームでプラスチック部品を成形し、信頼性の高い製品を安定的に生産しています。



→ 環境への取り組み

有害な水銀ランプを使わない環境配慮型商品

カシオは、環境への負担が少ない製品を積極的に開発しています。プロジェクターでは、世界で初めて高圧水銀ランプを使わない独自の光源技術で、高輝度投影を実現。全製品で「水銀ゼロ」を達成しました。有害物質である水銀のリスク削減を目的とした「水銀に関する水俣条約」など、世界的に水銀不使用が呼びかけられる中、カシオはプロジェクターを通じて「水銀ゼロ」を推進するリーディングカンパニーとして、環境負荷の軽減に努めています。



地球温暖化防止のための地域活動

中国の生産拠点であるカシオシンセンでは、地域行政機関が推進している苗木の植樹活動に、社員がボランティアとして毎年参加しています。2016年で9回目となり、地域における緑の成長を見守っています。また、カシオが主催する日本の男子プロゴルフトーナメント「カシオワールドオープン ゴルフトーナメント」では、大会期間中にギャラリーバスが排出するCO₂のカーボン・オフセットを2010年より行い、温室効果ガス削減の自主的な負担をするとともに、自家用車による排出CO₂の削減のためギャラリーバスの利用促進を図っています。



→ 社会への取り組み

教育環境の改善や科学技術への興味喚起を目指した活動

カシオ中国では、貧困や災害が原因で教育環境に恵まれない児童に向けて「私の夢のリュックサック」と題した支援活動を行っています。児童には文房具などを入れたリュックサック、学校には電卓や電子楽器など授業で使えるカシオ製品を贈呈し、子どもたちの教育環境の改善を目指しています。また、カシオの創業者の一人が残した数々の発明を伝えるために設立した榎尾俊雄発明記念館は、子どもたちに向けた夏休みの企画展示を実施しています。2015年は、電卓とそろばん、ストップウォッチと砂時計、電子辞書と書籍の辞書を実際に比べて、デジタルの原理やデジタル化によるメリットを子どもたちに体験してもらい、科学技術に興味を持ってもらいました。



HISTORY

カシオのイノベーションの歴史

カシオ計算機株式会社は、忠雄、俊雄、和雄、幸雄という四人の樫尾兄弟が、それぞれの得意な力を生かして世界初の小型純電気式計算機の開発に成功し、1957年に設立しました。開発を担当していた次男の俊雄の持論は「発明は必要の母」。世の中が求めるものを開発するのではなく、自分たちが発明した製品で世の中に新しい必要性を生み出すという考えでした。それは、デジタル技術を発展させ、電卓、時計、電子楽器などの発明品を世に送り出す開発哲学として受け継がれ、今なお新しい価値を生み出し続けています。



上部写真：左から、次男俊雄、三男和雄、長男忠雄、四男幸雄。
手前は開発に成功した計算機14-A。



14-A

1957年 世界初の小型純電気式計算機。オフィスに置くサイズで静かで高速な計算を実現。埃に強く接触不良を起こしにくい独自のリレー素子を開発して信頼性を確保。数多くの企業や研究機関で導入され、事務計算や技術計算にかかる労力を減らした。



001

1965年 世界初のメモリー付き電子式卓上計算機。



fx-1

1972年 三角関数、指数関数など各種関数計算をワンタッチのキー操作で可能にした関数電卓。



カシオミニ

1972年 世界初のパーソナル電卓。1チップLSIや6桁の表示ディスプレイ、シンプルな部品設計により12,800円の価格を実現した。シリーズ累計1,000万台以上が売れて一般家庭に広く普及し、半導体の発展にも貢献した。



カシオトロン

1974年 「時間は1秒ずつの足し算」という発想から生まれた電子時計。大の月・小の月を判別して日付を調整するオートカレンダー機能を、世界で初めて腕時計に搭載した。



カシオトーン201

1980年 「誰にでも楽しめる楽器」をコンセプトとした電子楽器。音の時間的変化に着目して開発した「子音母音システム」により、さまざまな種類の自然楽器に近い音色を実現。



TR-2000

1981年 英和・和英辞書を内蔵した簡易型の電子辞書。



G-SHOCK (Gショック)

1983年 「落としても壊れない時計」をコンセプトに開発された耐衝撃腕時計。壊れやすい精密な腕時計の常識を覆し、いつでも気軽に使える実用性と「タフネス」という世界観が全世界のユーザーに支持されている。



TV-10

1983年 明るい場所でも暗い場所でも見やすい表示を実現した世界最小(当時)のポケット液晶テレビ。



SL-800

1983年 薄さ0.8ミリのクレジットカードサイズを実現。持ち運んでいつでも計算ができる究極の薄型電卓。



CZ-101

1984年 多彩な音色を簡単に創り出せるP.D.音源を採用したデジタルシンセサイザー。



fx-7000G

1985年 グラフ表示によって数式を直感的に把握できる関数電卓。



CELVIANO (セルヴィアーノ)

1991年 繊細で豊かな表現ができるAP音源を採用した本格的な電子ピアノ。



QV-10

1995年 世界初の液晶ディスプレイを採用した個人向けデジタルカメラ。デジタルカメラを市場に普及させ、画像でコミュニケーションする文化を創造した。



FKT-100

1995年 時刻情報を乗せた電波を受信して時刻を修正する機能で、正確な時刻をいつでも把握できるようにした腕時計。



EX-word (エクスワード)

1996年 本格的に電子辞書の展開をスタート。コンテンツや検索機能の大幅な強化で電子辞書市場を拡大した。



CASSIOPEIA (カシオペア)

1996年 オープンプラットフォームのWindows® CEを採用した携帯情報端末。



C303CA

2000年 耐衝撃・耐水性能を持ったタフネス携帯電話。場所を気にせず電話ができることで人気を博した。



EXILIM (エクシリム)

2002年 世界最薄(当時)のスリム形状でウェアラブルを実現した液晶モニター付きカード型カメラ。常に携帯し、撮りたいときに気軽に撮影を楽しむスタイルを提案。



Privia (プリヴィア)

2003年 省スペースで演奏を楽しめるスタイリッシュな電子ピアノ。



XD-L4600

2004年 衝撃や振動に強い堅牢な設計を施した電子辞書。



EX-F1

2008年 1秒間に60枚の高速連写を実現したデジタルカメラ。



グリーンスリムプロジェクター

2010年 レーザーとLEDを組み合わせたハイブリッド光源により、高圧水銀ランプを使わずに高輝度を実現。光源寿命も約2万時間を達成した低環境負荷のデータプロジェクター。



EX-TR100

2011年 自在に動くフレームと回転するレンズで、自由な撮影スタイルを実現したデジタルカメラ。



EX-FR10

2014年 カメラ部と液晶モニター付きのコントローラ部を分離して撮影できるデジタルカメラ。

1957 → 1960s → 1970s → 1980s → 1990s → 2000s →

人間の可能性を信じ、
常識にとらわれない発想で、未来をつくる。

世界が気づいていない、世界へ。

会社概要 (2016年3月31日現在)

商号	カシオ計算機株式会社	設立年月日	1957(昭和32)年6月1日
英文商号	CASIO COMPUTER CO., LTD.	資本金	485億9,200万円
本社	〒151-8543 東京都渋谷区本町一丁目6番2号	従業員数	11,322名(連結)
TEL	03-5334-4111(代表)	ホームページ	http://casio.jp/

役員 (2016年6月29日現在)

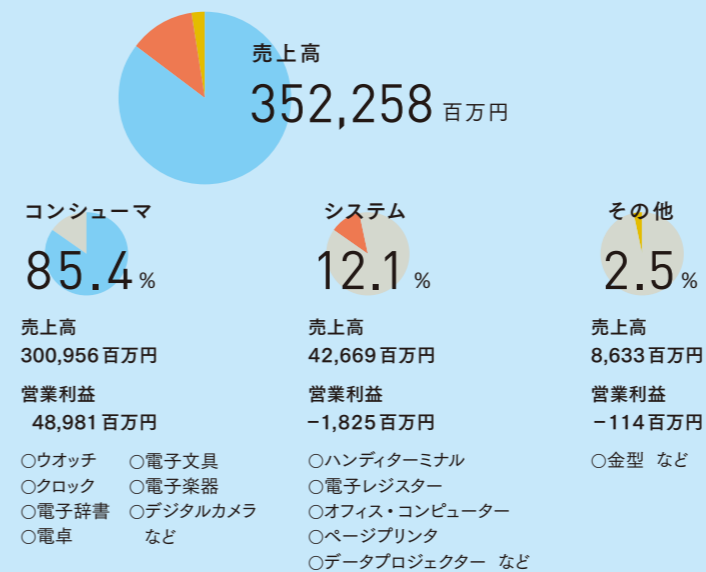
代表取締役	会長	梶尾 和雄	監査役(常勤)	高須 正
代表取締役	社長	梶尾 和宏	監査役	大徳 宏教(社外監査役) 戸澤 和彦(社外監査役)
取締役	副社長執行役員	中村 寛	上席執行役員	持永 信之 梶尾 哲雄 梶尾 隆司 中山 仁
取締役	専務執行役員	高木 明德 増田 裕一 伊東 重典	執行役員	小林 誠 井口 敏之 矢澤 篤志 寺田 秀昭 守屋 孝司 太田 伸司 植原 正幸 安藤 仁 稲田 能之 山下 和之
取締役	執行役員	山岸 俊之 高野 晋 齋藤 春洋		
取締役		石川 博一(社外取締役) 小谷 誠 (社外取締役)		

売上と利益 (連結会計年度2015年4月~2016年3月)

売上高	352,258 百万円	経常利益	41,069 百万円
営業利益	42,169 百万円	当期純利益	31,194 百万円

報告セグメントごとの売上高と営業利益

※セグメント別の連結営業利益は調整前の数値です(調整額 -4,873百万円)



地域別売上高比率

